

展示室 1 語る風景

※作品は都合により一部展示替えを行うことがあります。

イギリス美術を代表するジャンルである風景画は、時代ごとにその表現や役割を変えながら発展してきました。それは、単に自然を写すものではなく、語りたい物語を紡ぐ手段でもあったのです。近代では、ターナーが自然の猛威や象徴性を強調するために、風景を再構成しています。また、身近な自然をありのままに描いたように見えるコンスタブルの作品でも、実は絵画としての演出が施されました。やがて時代が進むと、技術革新や戦争の影響で、航空機から俯瞰する新たな視点が生まれます。さらに近年は、人間による自然の支配が行き詰まりを見せるなか、ランド・アートなどによって自然と人間の関係が改めて問い直されています。18 世紀から現代までのイギリス美術における風景の豊かな語りをお楽しみください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー原画、 トマス・ラプトン版刻	ディール	1826	メゾチント	ローダーコレクション
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー原画、 エドワード・フィンデン版刻	『パイロンの生涯とその作品』より ジブラルタル ウーグモンから見たワートルローの戦場	1832-34	エングレービング/ポートフォリオ	ローダーコレクション
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カンバーランド州のコールダー・ブリッジ	1810	油彩・キャンバス	
トマス・マイルズ・リチャードソン・ジュニア	コンウェイ城の日没	1855	水彩・紙	
トマス・ゲインズボロ	荷馬車のいる丘陵地帯の森の風景	1745-46 頃	油彩・キャンバス	
トマス・ゲインズボロ	牧夫と牛のいる森の風景	1758 頃	鉛筆・紙	
ジョン・コンスタブル原画、デイヴィッド・ルーカス版刻	『イングランドの風景』より ストーク・パイ・ネイランド ノーフォーク、ヤーマス	1830-32	メゾチント/ポートフォリオ	ローダーコレクション
ジョン・コンスタブル	デダムの谷	1802	油彩・紙、キャンバス	
トマス・ガーティン	エクセター大聖堂	1798 頃	水彩・紙	
クリストファー・リチャード・ウィン・ネヴィンソン	『航空機製作の六場面』より 空中で 4000 フィートでの旋回飛行 ドイツ戦闘機一タウプへの急襲	1917	リトグラフ・紙	ローダーコレクション
クリストファー・リチャード・ウィン・ネヴィンソン	大攻撃の後	1918	リトグラフ・紙	ローダーコレクション
ハミッシュ・フルトン	過去 現在 未来	1974	写真、テキスト・紙	
ハミッシュ・フルトン	雨/壁	1983	写真、テキスト・紙	
ハミッシュ・フルトン	鳥/石	1986	写真、テキスト・紙	
ハミッシュ・フルトン	稜線	1990	鉛筆・紙	
エドワード・カルヴァート	小川	1829	木口木版・紙	ローダーコレクション
エドワード・カルヴァート	貴夫人とミヤマガラス	1829	木口木版・紙	ローダーコレクション
エドワード・カルヴァート	林檎酒の宴	1828	木口木版・紙	ローダーコレクション
エドワード・カルヴァート	家路	1830	木口木版・紙	ローダーコレクション
ウィリアム・ブレイク	コリネットの旅：ロンドンへ 62 マイルの標石		木口木版・紙	ローダーコレクション
ジョン・マーティン	ノアの大洪水	1828	メゾチント・紙	ローダーコレクション
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス	
サー・エドワード・コリー・バーン＝ジョーンズ	フローラ	1868-84	油彩・キャンバス	

展示室 2 草土社とその周辺

草土社は日本の洋画団体。大正 4（1915）年の現代美術社主催の展覧会を契機に、岸田劉生を中心に中川一政、清宮彬、木村莊八らによって創立されました。名は劉生の《道路と土手と塀（切通之写生）》（東京国立近代美術館所蔵）に見られるような草と褐色の土に由来し、同 11（1922）年までに計 9 回開催されます。当時の劉生は、デューラーなど北方ルネサンスに傾倒し、自ら「写実的神秘派」と称して写実を極め、同人もこれに追随しました。時代に逆行するとの批判を浴びながらも草土社風とよばれる特徴を生み出し、同時代の作家に大きな影響を与えます。ここでは、当館が収蔵する草土社の作家の作品とともに関連作家の作品を通じて、草土社の表現の一端を浮かび上がらせます。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
	第 2 回草土社美術展覧会ポスター		1916(大正 5)	木版・紙
岸田 劉生	男之像	1919(大正 8)	水彩・紙	
岸田 劉生	照子像	1920(大正 9)	水彩・紙	
岸田 劉生	葵の像	1915(大正 4)	インク・紙	
岸田 劉生	The Earth (大地)	1915(大正 4)	木版・紙	
岸田 劉生	怒れるアダム	1914(大正 3)	エッチング・紙	
岸田 劉生	『天地創造』より 欲望	1914(大正 3)	エッチング・紙	
木村 荘八	祖母の顔	1916(大正 5)	油彩・板	
木村 荘八	暮るゝ堀	1926(大正 15)	油彩・板	
木村 荘八	人物のいる風景		インク・紙	
木村 荘八	空き地		インク・紙	
木村 荘八	道のある風景	1914(大正 3)	油彩・キャンバス	
河野 通勢	ホレブの岩		油彩・板	
河野 通勢	聖書	1920(大正 9)	インク・紙	
河野 通勢	ソロモンの裁判	1919(大正 8)	インク・紙	
河野 通勢	裾花川風景	1914(大正 3)	インク・紙	
河野 通勢	樹木スケッチ	1915(大正 4)	インク・紙	
中川 一政	冬の郊外 (葱畑)	1918(大正 7) 頃	油彩・キャンバス	
横堀 角次郎	秋景	1927(昭和 2) 頃	油彩・板	
梅原 龍三郎	静物		油彩・キャンバス	
バーナード・リーチ	山水	1968	墨・紙	
バーナード・リーチ	白磁魚絵皿	1961	磁器	
藤島 武二	「耕到天」習作	1936(昭和 11)	油彩・キャンバス	
岸田 劉生	銀座と数寄屋橋畔	1911(明治 44) 頃	油彩・板	
岸田 劉生	銀座数寄屋橋	1909(明治 42) 頃	油彩・板	
岸田 劉生	『劉生図案画集』	1921(大正 10)	木版・紙／ポートフォリオ	

展示室3 昭和 100 年—揺らぐ社会と対峙する

2025 年は昭和元年から数えてちょうど 100 年目にあたります。また、第二次世界大戦の終戦から 80 年の年でもあります。

近代化が進み、大衆文化が花開いた大正期のモダンで自由な空気を纏いながら幕を開けた昭和ですが、世界恐慌の影響や軍部の台頭もあり、日本は徐々に国際的な孤立を深め、戦争へと向かっていきます。

1945（昭和 20）年 8 月 15 日、戦争は終結し、1952（昭和 27）年に日本は主権を回復します。その後は高度経済成長の時代を迎え、戦災からの復興を遂げる一方、社会に暗い影を落とす事件や環境問題も起こりました。このような社会の変化に画家たちは真摯に向き合い、創作の原動力としました。ここでは、激動の時代「昭和」の作品を特集します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
町田 隆要 (信次郎)	「三越呉服店 大阪支店ポスター」下絵	1928(昭和 3) 頃	水彩、鉛筆・紙	加藤静子氏寄贈
浦野 銀次郎	東京名所 帝都日本橋ヨリ三越呉服店ヲ望ム	1931(昭和 6)	多色石版・紙	長谷川宏コレクション寄贈
川上 澄生	夜の銀座	1929(昭和 4)	木版・紙	
川上 澄生	新装の九段坂	1929(昭和 4)	木版・紙	
小野 忠重	銀座裏	1934(昭和 9)	木版・紙	
南 薫造	雪の日の東京	1933(昭和 8)	油彩・スケッチボード	
今西 中通	子供を抱く女	1943(昭和 18) 頃	油彩・キャンバス	
牧野 義雄	日本大使館から見たロンドン爆撃	1940(昭和 15)	油彩・キャンバス	
佐藤 静司	小沼機長	1944-45(昭和 19-20) 頃	水彩、鉛筆・紙	佐藤静司氏寄贈
佐藤 静司	初年兵	1944-45(昭和 19-20) 頃	水彩、鉛筆・紙	佐藤静司氏寄贈
丸樹 長三郎	おろかなりし歴史	1945(昭和 20)	油彩・キャンバス	丸樹敏男氏寄贈
吉井 忠	敗れたる風景	1946(昭和 21)	油彩・キャンバス	吉井忠氏寄贈
浜田 知明	初年兵哀歌 (山を行く砲兵隊)	1953(昭和 28)	エッチング、アクアチント・紙	
鎌田 正蔵	飢える人	1952(昭和 27)	油彩・キャンバス	鎌田正蔵氏寄贈
中村 宏	射殺 Aching	1957(昭和 32)	油彩・キャンバス	
高山 良策	漁夫	1958(昭和 33)	油彩・キャンバス	
鎌田 正蔵	鳥が落ちる ('86.4.26 の記録)	1986(昭和 61)	アクリル・キャンバス	
鎌田 正蔵	アリス・ハーズ夫人に捧ぐ	1969(昭和 44)	フェルトペン、アクリル、インスタントレタリング・紙	鎌田正蔵氏寄贈
佐藤 潤四郎	手吹きウイスキーボトル (スーパースニッカ) 東京五輪 1964 モデル	1964(昭和 39) 頃	ガラス／宙吹き	ニッカウキスキー株式会社寄贈
亀倉 雄策	東京オリンピック (第 1 ～ 3 号ポスター)	1961-63(昭和 36-38)	ポスター	復刻版 (1990 年凸版印刷)
五十嵐 威暢	科学万博つくば '85	1983(昭和 58)	ポスター	復刻版 (1990 年凸版印刷)

展示室4-① 線を刻むーエングレーヴィングの世界

銅版画技法「エングレーヴィング」は、15世紀のヨーロッパを起源に隆盛しました。ビュランとよばれる鋭利な刃物を用いて金属板に直接線を刻み、繊細な陰影を表現します。明治時代には、エドアルド・キヨソネが紙幣製造や技術者育成のために招聘され、日本にもこの技法が伝えられました。以来、独自の発展を遂げながら、現在も紙幣などの原版作製にはエングレーヴィング技法が受け継がれています。

同じくビュランを用いる技法、「木口木版（wood engraving）」は、密度の高い木の幹を輪切りにした木口面を版とします。18世紀末のイギリスで発展し、緻密な描写による挿絵が本や新聞を飾りました。線の集積が生み出す二つのエングレーヴィング技法の世界をご覧ください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
トマス・ビューイック	『四足獣概説』	1790	木口木版・紙／本
トマス・ビューイック	『英国鳥類誌 第一巻 陸鳥編』	1797	木口木版・紙／本
ディエル兄弟	『イギリス風景画集』	1863	木口木版・紙／本
リュシアン・ピサロ	C. ペロー『眠れる美女と赤ずきん』	1899	木口木版・紙／本
ウィリアム・ブラウン・マクドゥーガル	J. キーツ『イザベラ（バジルの壺）』	1898	木口木版・紙／本
合田 清	独逸皇帝フレデリック三世之肖像	1888(明治21)	木口木版・紙
青木 繁	『春鳥集』（蒲原有明著、本郷書院）	1905(明治38)	木口木版・紙／本
北川 民次	メキシコの浴み	c.1941(昭和16頃)	木口木版・紙
日和崎 尊夫	『FURESIMA』（坂本直昭著、創流舎）より	1980(昭和55)	木口木版・紙／ポートフォリオ
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	クローヴェリー湾、デヴォンシャー	1824	エッチング、ライン・エングレーヴィング・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ボースウィック城		エッチング、ライン・エングレーヴィング・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カリュー城、ペムブローク		ライン・エングレーヴィング・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	『キャンベルの詩集』より アンデス、海岸	1837	ライン・エングレーヴィング・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	『キャンベルの詩集』より スイスの谷	1837	ライン・エングレーヴィング・紙
ウィリアム・ホガース	ビール街とジン小路 ビール街	1750-51	エッチング、エングレーヴィング・紙
ウィリアム・ホガース	ビール街とジン小路 ジン小路	1750-51	エッチング、エングレーヴィング・紙
ウィリアム・ブレイク	『ヨブ記』より 神の玉座の前のサタン 天地創造 キリストの幻 繁栄を回復したヨブとその妻	1825	ラインエングレーヴィング・紙
エドアルド・キヨソネ	岩倉具視公肖像	1889(明治22)	エングレーヴィング・紙
エドアルド・キヨソネ	日本銀行兌換銀券 壹圓	1888(明治21)	エングレーヴィング・紙
エドアルド・キヨソネ	大日本帝國政府 地券	1875(明治8)	エングレーヴィング・紙

展示室4-② 食卓を彩る美の世界

おなじ料理でも、すてきな食器でいただくと、なぜか普段より美味しく感じられた経験はありませんか。それは、テーブルウェアの見た目の美しさや、手に取ったときの心地よさが、食事の雰囲気そのものを豊かにしてくれるからです。

このように、食卓を彩る美しい食器やカトラリーは、眺めて楽しむだけでなく、実際に使うことによって私たちの暮らしを豊かにし、人と人とのつながりや歴史・文化の広がりをも生みだしてくれます。

美術館でテーブルウェアを鑑賞するさいも、その美しさをじっくり味わい、日々の生活のなかで、小さな幸せを楽しんでみてください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
クリストファー・ドレッサー	クラレットジャグ（ぶどう酒用容器）		ガラス、金属、電気メッキ	
クリストファー・ドレッサー	刻文舟形容器	1892～95 頃	陶器	
クリストファー・ドレッサー	染付鳥波濤文把手付鉢		磁器	
クリストファー・ドレッサー	黄緑釉アールヌーヴォー風装飾文皿	1892～95 頃	陶器	
クリストファー・ドレッサー	彩色金彩ロータス文大皿		陶器	
クリストファー・ドレッサー	色絵花模様皿とボウルのセット	1886	陶器	
クリストファー・ドレッサー	色絵金彩竹梅文水差		磁器	
クリストファー・ドレッサー	黄緑釉水差（一対）	1892～95 頃	陶器	
クリストファー・ドレッサー	橋型二重注口人面壺	1879～82 頃	陶器	
クリストファー・ドレッサー	三角型薬味入れセット		ガラス、金属、電気メッキ	
クリストファー・ドレッサー	蓋つきスープ入れ		金属、電気メッキ、黒檀把手	
佐藤 潤四郎	ルーマー杯（グリーン）		ガラス／宙吹・プランツ、雲母封入	石川和子氏寄贈
佐藤 潤四郎	竹に雀文ワイングラス		ガラス／宙吹・グラヴェール、プランツ	佐藤久枝氏寄贈
佐藤 潤四郎	葡萄文ワイングラス		ガラス／宙吹・グラヴェール	佐藤久枝氏寄贈
佐藤 潤四郎	オリンピックブルー硝子皿	c.1941(昭和 16 頃)	ガラス／宙吹	石井謙治氏寄贈
吉田 丈夫	クリスタル瓶《瓢》		ガラス／宙吹	田淵十一氏寄贈
浜田 庄司	白釉鉄絵茶碗		ストーンウェア	
浜田 庄司	鉛釉花打茶碗		陶器	

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
仁阿弥 道八	刷毛目鉢	19c(江戸時代)	陶器	渡辺宗侑氏寄贈
田村 耕一	野草図楕円鉢	1963(昭和38)頃	陶器	麻山富義氏寄贈
浜田 庄司	黒釉錆流描角皿		陶器	麻山富義氏寄贈
佐藤 潤四郎	鳥文大皿		陶器	田淵十一氏寄贈

ロビー展示 彫刻・他

	作者名	作品名	制作年	技法・材質	
●1階	アントニー・ゴームリー	領域 XIII	2000	ステンレス・スチール棒	
	アントニー・ゴームリー	量子雲 XXIII	2000	ステンレス・スチール棒	
	笠置 季男	躍進	1958(昭和33)	セメント	
●2階展示ロビー	アリスティード・マイヨール	もの思い	1930	ブロンズ	大高善二郎氏寄贈
	植木 茂	体		木彫	
	木内 克	露柱	1976(昭和51)	テラコッタ	
	柳原 義達	黒人の女	1956(昭和31)	ブロンズ	
●前庭	バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ	